



東京経済大学ニュース

Vol. 03

東京経済大学ホームページ : <http://www.tku.ac.jp/>

CONTENTS

特集 キャリアデザインプログラム導入に向けて

“就業力” を自ら育成する基礎を身につける

東経大インフォメーション

- ① 陸上競技部 吉村匠選手が東経大史上初、箱根駅伝に出場
関東学生連合チームで復路の6区を見事に走破
- ② 好評『ゼミする東経大』広告に新作登場
自ら、主体的に学ぶ。だからこそ『ゼミする』と動詞です
- ③ 平成27年公認会計士試験に5名が合格
『会計プロフェッショナルプログラム』所属の在学生2名も難関突破
- ④ AO・推薦入試志願者が約2割増加
指定校推薦は50名増で、449名から499名に
- ⑤ 友納あけみシャンソンコンサート開催 (2016年2月20日)
主催：大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会
- ⑥ 学内で気軽に国際交流・グローバルラウンジ コトパティオ 経過報告
- ⑦ イベント報告
 - ・環境とエネルギーの未来 国際シンポジウム
 - ・コミュニケーション学部開設20周年記念シンポジウム
- ⑧ その他
外国語スピーチコンテストで留学生が同時受賞の快挙！／経営学部 井上普就ゼミ生がプロネクサス懸賞論文で佳作／教職員による知的書評合戦『ビブリオバトル』開催／災害避難と帰還～避難指示解除10年を迎える三宅島の復興から考える～



特集 キャリアデザインプログラム導入に向けて

“就業力” を自ら育成する基礎を身につける

2017年4月から“就業力”を自ら育成する基礎を身につける『キャリアデザインプログラム』の導入を決定し、カリキュラムなど具体的な検討を進めています。入学時には学部を決めずに、50人の定員を4つある各学部から割り当て、AO入試と一般入試の全方式で受験生を募集する予定です。2004年に開設された『21世紀教養プログラム』以来、13年ぶりに行う新たな学部横断型の履修プログラム導入となります。



キャリアデザインプログラム設置準備委員会 委員長
学長補佐・コミュニケーション学部准教授
北山 聡

『キャリアデザインプログラム』の主な特徴としては、4年間を通じてキャリア教育を行うこと、入学時には学部を特定せずに1年次に入門科目を学び、2年次から学部所属し専門科目を学ぶこと、学部横断型の広い分野の科目を履修可能なことの3点が挙げられます。

まず4年間を通じたキャリア教育としては、少人数制の『キャリアデザインワークショップ』を1年次から4年次まで開講します。この『キャリアデザインワークショップ』では、学生自身が自らのキャリアについて主体的に考える力を、少人数参加型の講義で段階的に身につけていくことを目指します。また並行して、学内志塾『大倉進一層キャリア塾』を設立し、希望者から選抜を行い、キャリア意識の高い学生への支援を強化する計画です。

第2の特徴は、2年次から学部所属し、各学部の専門科目を学んでいくことです。『キャリアデザインプログラム』に入学した学生は、1年次には各学部の入門科目を4学部にわたって履修します。その入門科目を学んだ後、2年次からの所属学部選択が可能となります。



受験生の中には、大学に入ってから学びのイメージを具体的なものとして抱くことができないまま、大学選びや学部選びを行っている人が少なくありません。これが入学後に「自分が学びたかったこと」と「自分が入った大学や学部で学べること」の差となって、学びに対する意欲が低下してしまう、いわゆるミスマッチ現象が起こる要因のひとつもなっています。

『キャリアデザインプログラム』では、専門の入門科目を学ぶことを通じて、自らの関心が高い分野を発見し、2年次からの学部を選ぶことができます。以降は、各学部のカリキュラムに沿って履修していくため、十分な専門教育を受けることが可能です。また卒業時には、2年次以降に所属した学部の学士号を取得します。



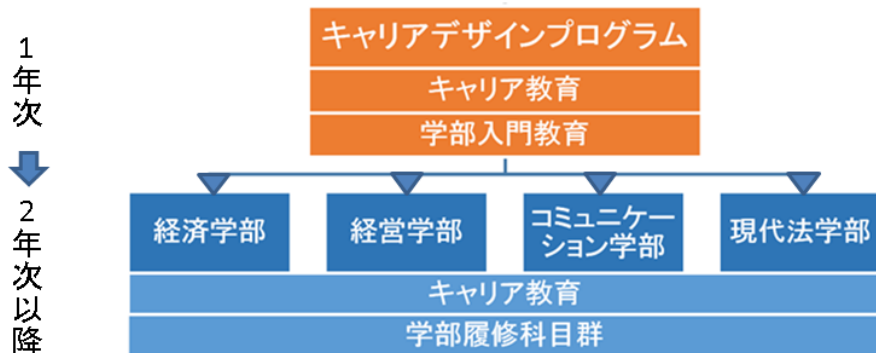
キャリアデザインプログラムでは、就業力を自ら育成する基礎を身につけるための教育を行います。

1年次において経済・経営・コミュニケーション・現代法という4学部の入門科目を学ぶことで、広く社会科学素養を養うことが可能になることも、同プログラムで入学した学生のメリットといえるでしょう。

第3には、学部横断型の履修が可能な仕組みを設けます。本学では、社会科学の総合大学として上記4つの分野にわたって多くの専門科目を開講しています。これらさまざまな専門科目から、自身の関心が高い学部横断型の科目を履修できることは、学生主体の多面的な関心に基づいた学びを可能にします。

現在でも各学部で他学部の科目をカリキュラムの一部に取り入れています。これを4学部に通化して拡大し、履修可能科目を増やしたものが『学部横断履修科目』です。学生が履修する科目をテーマごとにクラスターとしてまとめて提示することで、学生個人の関心に基づく体系的履修を促すことができるような仕組みをつくる計画です。

■キャリアデザインプログラムのイメージ図





学内志塾『大倉進一層キャリア塾』では、希望者から選抜を行い、キャリア意識の高い学生を支援します。

『キャリアデザインプログラム』の目指すキャリア教育とは、就職試験や面接対策という短期的に必要な就職対策のノウハウだ

けでなく、学生が生涯を通じて持続的に就業力を自ら育成する基礎を身につけるための教育です。またキャリア教育を通じて、大学で学ぶ学問と仕事・職業との結びつきを意識させることで、学習へのモチベーションを高めることができると考えています。

就業力の基礎となる論理的思考能力、自らの考えを表現し伝える力、必要な情報を探し出し整理・理解する力、問題発見・理解・解決能力といった力は、ジェネリックスキルとも呼ばれます。このスキルは大学における学問的な学びを通して身につけることができるものです。その意味では、大学教育とキャリア教育は対立するものではなく、むしろ補完するものといえます。

大学における学びはジェネリックスキルを身につけるために有効であり、長期的に役に立つものであることを学生に伝えることで、学びに対して意欲と関心を引き出すことができるでしょう。また2年次から学部を選択可能とすることは、本学が社会科学系4学部であることのメリットを有効に生かせる仕組みでもあります。



卒業生を招いた情報交換会も行われます。

『キャリアデザインプログラム』は本学の強化してきた就業力育成を強化する取り組みです。キャリア教育の充実を図ったプログラムを実施することで、さらにそれを強化できることが大きなメリットとなります。2017年度から3学部を導入予定のカリキュラム改革『進一層科目』（仮称）によるゼミやキャリア教育の強化と併せて、教学改革による教育力向上を広くアピールしていく予定です。

東経大インフォメーション

① 陸上競技部 吉村匠選手が東経大史上初、箱根駅伝に出場

関東学生連合チームで復路の6区を見事に走破



魂のこもった走りで6区の下りを走破した吉村選手。体力を温存したスタート後の上りは「思いのほかきつかった」とゴール後にコメント。

は1時間02分23秒と大躍進を見せ、国際千葉駅伝の千葉選抜チームに選出されるなど素晴らしいシーズンを送りました。

エースとして順調に練習を積みながらも、3年生の夏に再び故障。さらに4年生になった昨年の夏は、盲腸による緊急手術と試練が続きます。退院後は1カ月ほど走ることができなかったものの、箱根駅伝予選会までに復調した吉村選手は1時間0分39秒の好記録で箱根駅伝出場の切符を手に入れたのです。入学してからの4年間、その3分の1の時間を怪我、体調不良に悩まされましたが、そんな試練を克服しての箱根駅伝出場は快挙といえるでしょう。

大きな夢をかなえた吉村選手は「チーム目標の10位まであと9秒という結果です。この大学生活はいろいろありましたが、最後はたくさんの方に応援いただき幸せいっぱいの陸上人生でした。応援本当にありがとうございました」とコメントしています。

1月2日(土)～3日(日)に開催された第92回箱根駅伝で、本学経営学部の吉村匠さん(4年)が関東学生連合チーム所属の選手として出場しました。本学陸上競技部の選手が箱根路を走るのは創部以来初の快挙です。

芦ノ湖を出発する6区で一斉スタートしたチームは12校とまれに見る数。集団の中でも冷静に自分のペースを刻んだ吉村選手はスタート後に5kmほど続く上り坂で体力温存に努め、コースが下り坂に入ると一気に加速し強豪チームに負けない走りを披露。箱根湯本を通過した後に厳しさを増すことで知られる6区ですが、吉村選手は険しい表情を見せながらもしっかりと足取りで風祭の中継地点へ到達し、襷(たすき)をつなぎました。

箱根駅伝初出場を果たした吉村選手ですが、そ

の道のりは決して順調ではありませんでした。入学後はケガに悩まされ半年以上も走れない日々を送りながらも、回復後は5000m競技で14分33秒77の自己記録を更新。その年の箱根駅伝予選会で



② 好評『ゼミする東経大』 広告に新作登場

自ら、主体的に学ぶ。だからこそ『ゼミする』と動詞です

2015年4月から、JR中央線の窓上に『ゼミする東経大』と題して広報活動を展開しています。月替わりで教員が登場し、各ゼミの取り組みについて印象的なコピーとイラストを用いた広告を掲載。この広告は本学のホームページとも連動しており、詳しいゼミの活動がウェブサイトで閲覧できるようになっています。

『ゼミする東経大』シリーズでは、これまでに10のゼミが紹介されました

カフェのコーヒー・サイズはなぜ、3種類なのか？身の回りから経済学を考える。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

得意なゼミの料金プランは、なぜ、異なるのか？
飲み最中の席における「閑居屋敷」は？
一度だけの勉強は、効果的なのか？
身近な事例で経済学の有用性を探ります。
(2015年4月1日～10月31日まで)

一般入試(前期)、センター利用入試(前期) 1月5日[火]願書受付開始
経済学部 経営学部 コミュニケーション学部 現代法学部
〒185-8502 東京都町田市南町1-7-34 042-328-7724[広報課]

東京経済大学

JR中央線の車内広告は目を引くイラストとキャッチがユニークと好評。左は2016年1月から使用されている最新版。(下段は2015年に使用した広告)

国家予算は日本の「顔」。厚化粧も薄化粧もあります。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

あの着せ替え人形、大人にもアピールするにはどんな広告プランがいいだろう。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

自動音声の「ありがとう」はコミュニケーションなのだろうか。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

山へ、海へ、街へ。現場で「法」をとらえます。環境問題を考えるゼミ。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

映画の思惑通りに泣くのもいいが「物語のしくみ」を読み解くのも楽しい。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

介護ロボットのイノベーションが進むと経済はどう変わる？

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

人の動きもとらえるビッグデータを企業と一緒に分析します。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

メディアの影響を受けて「現実」は作られる。当たり前を疑わないと。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学

私たちにも関わる少子化。ゼミの議論はもめたけど乗り越えて政策提言へ。

ゼミする東経大 経済学部 サブフェンコ リュドミラ 専任講師

東京経済大学



③ 平成 27 年公認会計士試験に 5 名が合格

『会計プロフェッショナルプログラム』所属の在學生 2 名も難関突破

平成 27 年の公認会計士試験に 2 名の在學生と 3 名の卒業生が合格しました。在學生 2 名と卒業生のうち 2 名は、公認会計士や税理士など会計専門職を目指す学生を強力にサポートする本学の『会計プロフェッショナルプログラム』に所属し、資格取得に向け切磋琢磨していました。

今回の公認会計士試験の合格率はわずか 10.3%で合格者は 1051 名と、新制度導入以降、最少の合格者数となりましたが、こうした状況の中で在學生 2 名が合格。公認会計士試験は短答式試験と論文式試験に分かれており、前者に合格することで後者に進めるシステムですが、卒業生も 2 名が 1 年目で双方に合格しました。東京経済大学は平成 26 年の試験でも在学中に 6 名が合格しており、毎年複数の合格者を輩出しています。

④ AO・推薦入試志願者が約 2 割増加

指定校推薦は 50 名増で、449 名から 499 名に

東京経済大学では、2015 年 10 月 11 日（日）と 11 月 22 日（日）に 2016 年度 AO 入試、資格取得者入試、推薦入試を実施しました。志願者は昨年度より増加しており、特に経営学部簿記資格取得者入試の志願者は 2015 年度は 20 名であったところ 47 名と 2 倍以上に増え、指定校推薦も前年に比べ 50 名増加。うち女子受験生は 43 名と大幅に増加しています。

本年度、本学では女子受験生向けに『ハピネス&キャリア』と題した広報活動を展開してきました。その内容は、社会で活躍しながらキャリアを磨き、自分らしいライフスタイルを保つ土台をつくるため、腰を据えてじっくりと学べる大学生活について伝えるものですが、そうした趣旨が理解され反響を得られたものと考えています。

■2015 年 10 月・11 月入試結果

入試種別	2016 年度入試志願者数	2015 年度入試志願者数	前年度比
コミュニケーション学部一般 AO 入試	45 名	39 名	+6
現代法学部自己推薦入試	57 名	38 名	+19
経営学部簿記資格取得者入試	47 名	20 名	+27
スポーツ実績者入試（第 1 期）	60 名	41 名	+19
指定校推薦入試	499 名	449 名	+50
資格取得者入試	37 名	27 名	+10



⑤ 友納あけみシャンソンコンサート開催

主催：大倉喜八郎記念 東京経済大学学術芸術振興会

東京経済大学は、本学の前身大倉商業学校創立者・大倉喜八郎の文化的貢献の志を継承すべく、2002年に『大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会』を発足させ、十余年の間、第一線で活躍する研究者、芸術家を招き、学術芸術の振興とそれによる本学の社会への文化的貢献を中心に活動しています。



次回2月20日は、国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館（フォワードホール）で芸術公演『友納あけみシャンソンコンサート』を開催します。参加ご希望の方は、下記の方法でお申し込みください。

語りを中心としたソフトなステージで人気の友納さんは、早稲田大学第一文学部演劇科在学中から劇団『文学座』附属養成所に所属し、その後シャンソンの道を歩み始めました。

2013年にはソロコンサート20回到達を記念して3枚目のCDアルバム『愛の贈り物』を発売。自身が作詞を手がけた『もう一度故郷を』を収録し、ファンの期待に応えています。当日は「愛の賛歌」、「百万本の薔薇」、「再会」ほか、知名度の高い曲が披露される予定です。

日時	2016年2月20日（土）15:00～（開場 14:00）
会場	東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館 ホール
参加費	1,000円（大倉記念学術振興会会員・学生は無料）
申込方法	本学ウェブサイトからお申し込みいただけます。 ※電話でのお申し込みは受け付けておりません。
申込締切	2016年2月16日（火） ※ただし定員に達し次第、締め切らせていただきます。
定員	320名 ※事前申込制・先着順 ※6歳以下のお子様は入場できません。



⑥ 学内で気軽に国際交流 グローバルラウンジ コトパティオ経過報告

2015年10月の正式オープンから3カ月が経過

2015年10月に正式にオープンした『グローバルラウンジ コトパティオ』は、運用スタートから3カ月が経過し、徐々に学生たちの間に定着してきました。

学生が思い立ったときにいつでも気軽に立ち寄り国際交流ができるよう、コトパティオにはアメリカ人スタッフ2名が常駐しています。日常の交流のほか海外の行事も体験してもらうため、これまでにハロウィンやサンクスギビングデー、クリスマスなどのイベントが開催され、回を重ねるごとに参加者が増えています。



10月度は165名、11月度は237名、12月度は182名と、利用する学生は着実に増えています。

「言葉（コトバ）を磨きたい仲間たちが、いつでも集まれる中庭（パティオ）のような場所になってほしい」という願いを込め『コトパティオ』と名付けられました。

学生の利用者は曜日単位で見ると平均的で、突出して多い曜日はなく、午後1時から4時頃がピークタイムとなっています。利用目的で最も多いのはフリートークで、次いでプレゼンテーションの練習、授業プログラム内での利用と続き、英語での映画観賞やその他英語教材利用の順となっています。

利用している学生は「英会話力アップを目指して、コトパティオに定期的に通っています」、「留学からの帰国後、授業以外で英会話を使用することがなかったけれど、コトパティオがオープンしてから日常的に会話できるチャンスができて良かったです」など、英語に親しむ機会が増えた后感想を述べています。

アメリカ人スタッフのジェフは「学生たちがリラックスして英会話を楽しめる場として、外国映画や海外のテレビ番組、洋楽などをより身近に感じてもらえるようさらに努力していきたい」とコメントしており、通常の英会話の後にゲームなどを取り入れ、飽きることなく全体の会話量を増やせるようさまざまな取り組みを行っています。



⑦ イベント報告

Event 1 環境とエネルギーの未来 国際シンポジウム

本学主催の『環境とエネルギーの未来 国際シンポジウム』が2015年12月19日（土）、国連大学ウ・タント国際会議場で開催され、学生や関係者、一般を含め200名を超える参加者が訪れました。

2011年3月11日（金）の東日本大震災で発生した原子力発電所事故以降、環境とエネルギーは国の将来を左右する最重要課題となっています。そこで環境省と中華人民共和国駐日本大使館の協力を仰ぎ、日本、そして中国における第一級の論者と行政担当者を招いて、環境について積極的に研究に取り組む2つのゼミが中心となりながら、このシンポジウムを企画したのです。

シンポジウムは2部構成で進行し、第1部は『地球温暖化とグローバルな取り組み』、第2部は『省エネ・再生可能エネルギー社会への挑戦と自然資本』というテーマで、それぞれ基調講演と学生による問題提起、パネルディスカッションを実施しました。



「環境とエネルギーの未来 国際シンポジウム」実施プログラム

■ 第1部テーマ「地球温暖化とグローバルな取り組み」

基調講演 丹羽宇一郎 日中友好協会会長

問題提起 本学 南川秀樹 ゼミ学生

パネルディスカッション

司会進行 南川秀樹 東京経済大学客員教授、元環境事務次官

パネリスト 竹本和彦 国連大学高等研究所長、元環境省地球環境審議官
明暁東 中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官（経済担当）

■ 第2部テーマ「省エネ・再生可能エネルギー社会への挑戦と自然資本」

基調講演 森雅志 富山市長

問題提起 本学 周牧之 ゼミ学生

パネルディスカッション

司会進行 周牧之 東京経済大学教授

パネリスト 中井徳太郎 環境省大臣官房審議官（総括担当）
安藤晴彦 経済産業省戦略輸出交渉官、RIETI コンサルティングフェロー
和田篤也 環境省廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課長



Event 2 コミュニケーション学部開設 20 周年記念シンポジウム



コミュニケーション学部開設 20 周年を記念したシンポジウム『コミュニケーションの現在とこれから』が、2015 年 12 月 12 日（土）に大倉喜八郎 進一層館（フォワードホール）で行われました。川浦康至コミュニケーション学部長は、学部開設時の 20 年前から現在までのコミュニケーション状況

の変化に触れ、「コミュニケーションは人や社会のベースであること、メディアの重要性がますます高まっていること、情報は選択されたものであること、これらに気づくことがコミュニケーション学の効用である」と、コミュニケーション学の意義を強調しました。

続いて、情報学研究者で IT 起業家のドミニク・チェン氏、スマートフォン向けニュースを提供するスマートニュース株式会社執行役員の藤村厚夫氏、写真家の荻野 NAO 之氏が『コミュニケーションの現在とこれから』をテーマに、それぞれ講演を行いました。講演終了後は登壇者とコミュニケーション学部教員 3 人によるパネルディスカッションが行われ、会場内の参加者から募った質問も紹介されました。

最後に関沢英彦教授が「3 人の講演では、写真によるコミュニケーションやニュースを介したコミュニケーションなど、メッセージ以外のコミュニケーションが多く取り上げられた」とまとめの言葉を述べ、シンポジウムは閉幕しました。





⑧ その他

外国語スピーチコンテストで留学生が同時受賞の快挙！



本学主催による『外国語スピーチコンテスト』が2015年12月12日（土）に開催されました。同コンテストは英語と日本語の2部門で構成され、『英語スピーチコンテスト』は今回で12回目、『日本語スピーチコンテスト』は6回目となります。

第1部の『英語スピーチコンテスト』部門には18名が参加し、写

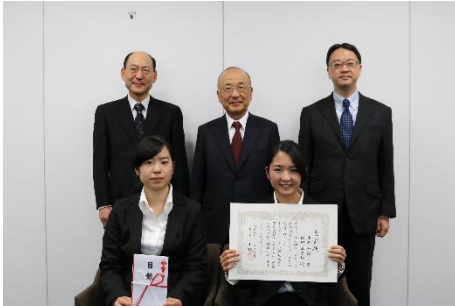
真を使用するほか表情豊かなジェスチャーを交え個性的なスピーチが披露されました。9名の留学生が参加した第2部の『日本語スピーチコンテスト』部門では、日本と自国の違いや現代の諸問題をテーマに「日本人の環境配慮に対する意識の高さ」や「些細なことにも感謝する気持ち」に関して、体験談を交えながらスピーチを行いました。

第1部で国際交流委員長賞、第2部で父母の会会長賞を同時受賞したチャン・ハ・ミエンさん（コミュニケーション学部1年・ベトナム）は、「自分で壁を壊さない！」というテーマで、自分の壁を壊すきっかけとなった中学時代の体験を語り、自分から行動することや一歩踏み出すことの大切さを話しました。チャンさんは「楽しむ気持ちで参加したので、両方受賞できて感動しています。自分の思っていることを認めてもらえて感謝の気持ちでいっぱいです」と喜びを語りました。



いのうえゆきなり

経営学部 井上普就ゼミ生がプロネクサス懸賞論文で佳作



企業のディスクロージャー・IRにおける実務サポートを提供する専門企業・株式会社プロネクサスが実施する『第7回プロネクサス懸賞論文』において、本学・井上普就（いのうえ・ゆきなり）ゼミ所属の中野智絵（なかの・ともえ）さん（経営学部3年）と横田眞奈弥（よこた・まなみ）さん（経営学部2年）が共同執筆した論文が佳作に選ばれ、2015

年12月7日（月）、同本社で表彰式が行われました。

上場企業のディスクロージャー・IRをより効果的かつ効率的なものにするための研究及び提案というテーマのもと、2人は有価証券報告書を読んで気になる点を探し、研究論文として成立するかどうか検討し「銀行における株式保有の実態とその積極的開示に関する提案」として論文を執筆しました。

選考委員長は2人の論文に関して「都市銀行、地方銀行併せて77社の複数年にわたる細かいデータの収集と分析がしっかりできている点が良かった。さらに細かい具体的な問題設定をすると、よりシャープな研究ができるようになる」と講評しました。

主催者と受賞者の間で意見交換も行われ、選考委員長から「東経大は会計の世界において歴史も伝統もあり、非常に評価の高い大学。自信を持って頑張る研究を続けてほしい」と声をかけられた2人は、しっかりとした声で「はい」と返事をしました。

教職員による知的書評合戦『ビブリオバトル』開催

本学教職員有志が学生の読書、図書館利用を促すため『図書部』を立ち上げ、図書館や図書にまつわることを取り上げた冊子『図書部だより』の発行をはじめ、展示やイベントなどさまざまな活動を図書館中心に行っています。

新年最初のイベントとして2016年1月14日（木）、学生による知的書評合戦『ビブリオバトル』が開催されました。これに先立ち2015年12月15日（火）には教職員代表によるビブリオバトルが開催され、5名の参加者がそれぞれ推薦図書について5分間プレゼンテーションを行ったところ、教職員を抑えてバトルを勝ち抜いたのは学生課職員。推薦図書はプラトンの『餐宴』でした。

主催する教員は「自分の好きな本、最近読んで面白かった本、古典など思い思いに持ち寄ったものが集まり、その自由さによって、参加者の興味を広げることができたとすれば、登壇者にとっての大きな喜びといえるでしょう」とコメントしています。



災害避難と帰還～避難指示解除 10 年を迎える三宅島の復興から考える～

2015 年 10 月 24 日（土）、本学大倉喜八郎 進一層館（フォワードホール）において「災害避難と帰還～避難指示解除 10 年を迎える三宅島の復興から考える～」と題した学術フォーラムを、尾崎寛直経済学部准教授が中心となり開催しました。

2000 年 8 月の三宅島噴火では全島民が 4 年 5 カ月にわたる長期避難を強いられ、本学から近い東京の多摩ニュータウンにも多くの島民が避難したことは記憶に新しいところです。

このフォーラムには、帰島を切望する島民の意向を受け、村長として帰島政策を牽引した平野祐康氏（発災当時は村役場の財政課長）、村の商工会課長として帰島後の産業復興に奔走した村上康氏、東京都庁で帰島支援対策本部を担っていた竹内直佐氏、さらに三宅村と同じように原発事故による放射能汚染のため全村避難を経験した福島県川内村の商工会長・井出茂氏というメンバーを迎えることができました。

住民の避難先を迅速に把握し『広報みやげ』を月 2 回郵送したほか、相互の連絡体制を構築するための『島民会』の組織、分散避難した島民が一堂に会し親睦を図る『島民ふれあい集会』の開催など、慣れない土地で避難生活を送る島民を孤立させないためのさまざまな取り組みについての話に、多くの参加者が興味を示していました。

【東京経済大学 総合企画部 広報課】

〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34

TEL : 042-328-7724 FAX : 042-328-7768 email : pr@s.tku.ac.jp